

第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介

4) 民家 4 隠岐の民家

隠岐の構法を、セガイとかコウツとか地元では呼びますが、出桁を回し、軒を深くとります。それ自体は連台造りとも呼ばれる日本各地で見られるのですが、隠岐の場合、隅をカヤの大木



佐々木家(隠岐の島町 釜)



佐々木家の二重天井

で出桁を受けた上に、先端を削って一木で垂木を受ける隅木として使います。



隠岐で最も好まれ

る木は松です。松の美しい木目

村上家 大正天皇が皇太子時代に行啓

を使いたがります。もちろん柱にも使いました。それからクロベ、これはネズコのように。ヒノキには見向きもしないというのは島根の本土も同様です。隠岐



億岐家(隠岐の島町)



都万目の家 (隠岐の島町五箇)

の民家は古いものが少なくな

ってきました。たいていは高い天井を持つ部屋を作ります。そして廻り縁を設けないこと、神棚と仏壇が隣り合わせに配置されることなどに特徴があります。



写真の石置き屋根はもう

この 1 軒しかありません。島後の釜集落にある佐々木家です。杉

海辺の民家(海士町)高い天井の居間 庭に小野篁の碑

皮の上に石を置きますが、住みながら葺き替えを行うために天井が二重に設けられています。海士の村上家は後鳥羽上皇の墓守の家です。億岐家は玉若酢神社の宮司さんの家です。襖の部屋も設けられています。駅鈴を伝える古い家です。都万目(ツルメ)の家は典型的な茅葺民家ですが、庄屋クラスです。赤瓦の民家は一般の民家ですが、天井が高く、室内は見違えるようです。